

人間社会学部開設 10 周年を迎えて

実践女子大学学長 田島 眞

人間社会学部開設 10 周年をお迎えし、お祝いを申し上げます。

振り返れば 10 年前は、私は教務部長（現在の大学教育研究センター長）の職にあり、新学部の立ち上げのお手伝いをしておりました。4 月の開設前のまだ寒い頃、予定教員に日野校舎にお集まりいただき、何度も討議を重ねていたことを懐かしく思い出します。当時の飯塚学長、長尾初代学部長も、新しい皮袋には新しい酒をとそれまでの実践にはない、新教育法を取り入れるよう奮闘しておりました。今では当たり前になった GPA も人間社会学部では、いち早く導入しておりました。

これは、人間社会学部では、他学部と異なり、複合領域を学ぶことで、学生ごとによって履修科目が大幅に異なるので、その修学状況を十分に把握することが求められていたからです。

正直いって、これまでの実践女子大学では考えられない複合領域での新学部設立です。はたして、志望者が集まるかどうか不安もありました。幸いにも高校生には好評で、今では実践女子大学の屋台骨を支えています。

人間社会学部の新設に伴い、新校舎も建築されましたが、建築面積の関係で、十分な教育・研究環境が整ったとはいえないと思います。何よりも不十分だったのは、助手の配置が充分でなかったことです。学生の履修相談には、教員自らがタッチすることになり、これが人間社会学部の特徴となりました。また、人間社会学部では、1 年次からゼミ（演習）が始まります。その意味でも、教員と学生が近いというのが、特徴となりました。

開設当初に集まった教員は、皆さん、この状況をよく理解していて、まさに一丸となって新学部の教育に当たってくれました。その成果が、年々増加する志望者と好調な就職率を支えていると思います。

人間社会学部のキャッチフレーズ、「人を知り、社会を知り、ビジネスを学んで、自分の将来をデザインする」をこれからもアピールして、さらなる発展を期待しております。